

世界寺子屋運動

「ネパール寺子屋」訪問レポート

(2023年7月1日～7月7日)

日本ユネスコ協会連盟は、ネパールにおいて、提携する現地 NGO の NRC-NFE が事業を運営する、マデサ寺子屋を含めた 23 の寺子屋を支援しています。

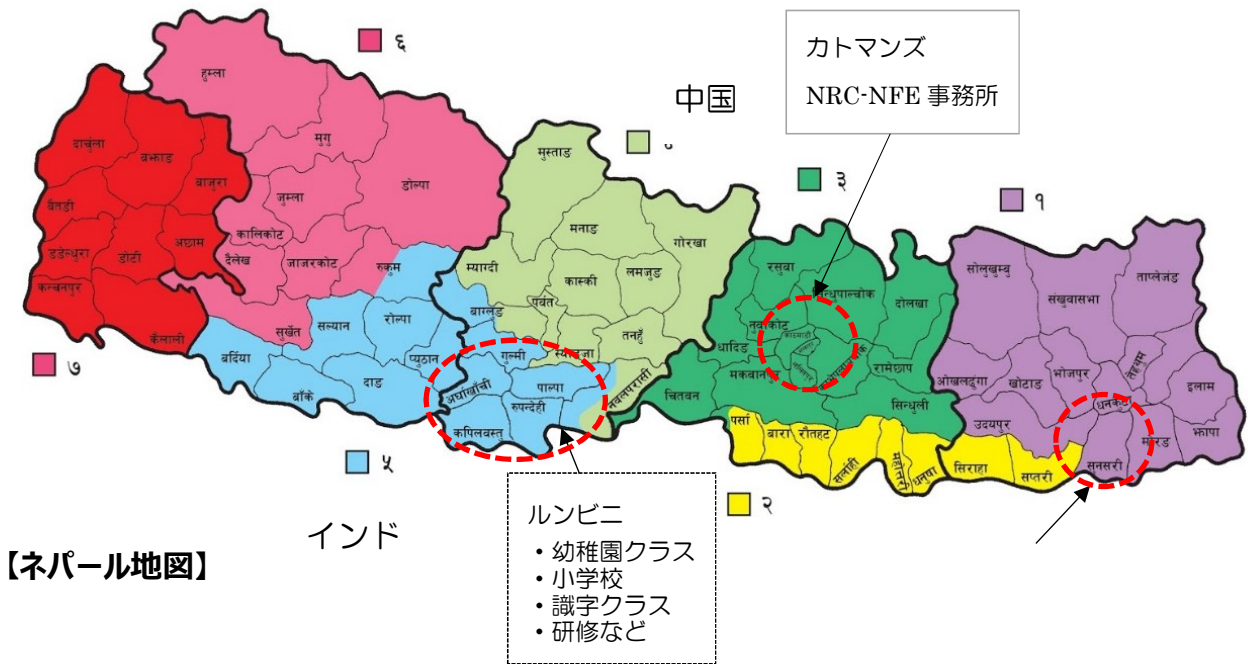
この度、皆様のご支援でネパールにマデサ寺子屋が建設され佐藤会長が開所式に参加しました。

以下は、7月1日(月)～7日(金)の7日間、佐藤会長が視察されたネパールの寺子屋の様子をお伝えします。

今回は、新しい寺子屋の開所式への参加と、ネパールの人々の自立支援を目的に実施している寺子屋での「学校に行けない子供たちへの教育」や「職業訓練」の実態把握を目的に訪問されました。

はじめに（ネパールの教育問題）

- ・ネパールは農業比率 80%で世界的に経済発展が遅れた国の一つとされています。
- ・2022年の国勢調査によるとネパールの識字率は 76.3%です。しかし、ルンビニのような農村部やネパール語を母語としない多くの地域、またカーストの低い人びとの識字率は低いままです。
- ・ネパール政府は識字や職業訓練などの拠点として寺子屋を活用することを政策としており、全国に 2,151 の寺子屋があります。



【市民生活と農村風景】



世界遺産パシュパティ寺院 (カトマンズ)



土産物市 (カトマンズ)



農村風景 (ルンビニ)



農村子ヤギ (ルンビニ)

1. 新しい寺子屋の開所式典

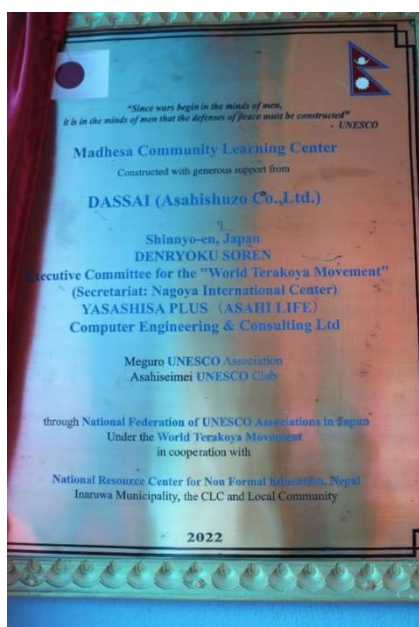
- 2022年10月に完成したマデサ寺子屋の開所式典に出席。
来賓や地域の人びとなど約50名が参加しました。
- 佐藤会長をはじめ、連邦議会議員や州議会議員、教育科学技術省ダカル局長、地元のイナルワ市長などが寺子屋の役割や今後の期待についてスピーチを行いました。
- その他、牛の飼育の研修を視察したほか、委員長からは子どもの教育だけでなく、生活に役立つ技術を寺子屋で教えていきたいという計画をお聞きしました。



佐藤会長による祝辞



主賓や寺子屋運営委員との集合写真



「マデサ寺子屋」の銘板（入口に飾られています）
支援団体・企業等の名前が刻まれています



開所式の直前まで実施された牛飼育の研修

2. ルンビニの寺子屋訪問

① シッダールタ寺子屋

- 支援を行っている寺子屋。プロジェクトでは、幼稚園クラス、家庭内識字クラス、識字クラスおよび職業訓練クラスを支援。地方政府の支援でお香作りなどを実施しています。
- 日付や曜日を、歌をうたいながら言ったり、カードを使ってネパール語の単語を学ぶ授業が行われていました。



寺子屋運営委員との集合写真



幼稚園クラス（ネパール語の単語の勉強）

② クツラ寺子屋

- 幼稚園クラス、小学校クラス、識字クラスおよび職業訓練クラスを支援しています。地方政府の支援で配線工事技術者の研修も実施しています。
- 活動紹介のほか、実施中の幼稚園クラスおよび小学校クラスを視察しました。
- 訪問時はちょうど軽食後の昼寝の時間でした。
- 小学校クラスは未就学児童および中途退学者を対象としたクラスです。



幼稚園クラス（昼食後の昼寝の時間）



小学校クラス(1年)算数ゼロの(概念を学ぶ)



クッラ寺子屋の運営委員



クッラ寺子屋の事務職員による事業説明

③ パジャルカッティ寺子屋

- 幼稚園クラス、小学校クラス、識字クラスおよび職業訓練クラスを支援。地方政府の支援で人形作り、裁縫および刺繍のクラスを実施しています。
- 小学校クラスでは理科の授業が行われており、11名の学生が出席していました。自宅や近所から持ち寄った砂、石、紙などが水に溶けたかどうか、当初の予想との違いを生徒たちが表にする作業が行われていました。



寺子屋の建物（事務所と教室）



小学校クラス(2年)理科(身近にある水溶性のもの)

④ ルンビニ・アダルシャ寺子屋（資金面で自立した寺子屋）

- 2020年まで支援をしていた寺子屋で、支援終了後も地方政府と連携しながら自立的に運営されていました。
- 青年向けのコンピュータークラスを視察しました。クラスではワード・エクセルのほか、会計ソフトの使い方を学んでいました。
- クラスは1日3回行われ、合計で50人が学んでいます。講師はインドでITの学位を取得した地元の20代男性で、自分のスキルを村のために役立てたいという理由で、寺子屋で教えていました。



ルンビニ・アダルシャ寺子屋の運営委員



コンピュータークラス(タイピングやワードなどを学ぶ)

⑤ NRC-NFE のルンビニ事務所を訪問

- 現地事務所職員に挨拶し、打ち合わせには事業開始時からのパートナーであるマイトリ氏も参加しました。
- ルンビニ事務所は 5 名のスタッフが在籍し、事業対象の 23 軒の寺子屋との連絡調整や事業モニタリング、評価を行っています。

⑥ 家庭内識字クラスの元学習者へのインタビュー

- 母親が子どもに伝統文化や料理を教え、子どもが母親に基礎的なネパール語を教えるというプログラム。
- 元受講者のドゥルガティさん（8 人家族）の農村にあるご自宅を訪問。4 カ月間の「家庭内識字クラス」を受講し、高校生の娘さんから基礎的なネパール語の「授業」を受講。現在は名前など簡単な文字を書くことができるようになっていました。



ルンビニ事務所への訪問（中央がマイトリ氏）



元学習者(ドゥルガティさん 写真中央)のご自宅でインタビュー

3. カトマンズの寺子屋訪問

① シディプール寺子屋

- 2020年まで「世界寺子屋運動」で支援を行っていたシディプール寺子屋（カトマンズ近郊）を訪問し、支援終了後の活動について伺いました。
- 寺子屋では裁縫クラスやコンピュータークラスのほか地域の伝統である藁製品づくり（マットや椅子など）を行っているとの報告がありました。

② NRC-NFE

- 現地パートナー団体である NRC-NFE を訪問しました。
- デイル・シュレスタ代表をはじめ 5名のスタッフが出席しました。



シディプール寺子屋の運営委員と佐藤会長



NRC-NFE のメンバーと佐藤会長

4. 教育科学技術省 人材育成センター（CEHRD）訪問

- 教育科学技術省においてノンフォーマル教育を担当する人材育成センターを訪問しました。
- ニルカンダ・ダカル局長からネパールにおけるノンフォーマル教育と教育政策に関する説明を受けました。
- 寺子屋の活動を評価頂くとともに、新しい寺子屋の建設支援の要望がありました。



挨拶をする佐藤会長



教育政策についてプレゼンをするダカル局長

5. 在ネパール日本国大使館訪問

菊田豊大使を表敬訪問し、意見交換を行いました。

- 今回訪問した寺子屋についてはうまく運営されていること、地域によってさまざまな活動（パソコンクラスなど）が行われていることを報告しました。
- 菊田大使からはネパール政府の産業政策等について説明がありました。

（最後に）

駆け足での訪問となりましたが、皆さんからの支援が現地の人々の生活の改善に役立っていることが確認できました。これからも家計の問題で学校に行けなくなった子供や文字の読み書きができない大人に教育の機会を提供していきたいと思います。皆さんのご支援を宜しくお願いいたします。

以上